



株式会社セブン&アイ・ホールディングス  
2014年2月期 第3四半期決算説明会

2014年1月7日

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

 2014年2月期 第3四半期実績

---

## 連結決算概要

- 営業利益、純利益とも過去最高を更新

	14/2期 第3四半期		
	金額	前期比	前期増減
グループ売上*	71,816億円	113.6%	+8,597億円
営業収益	41,865億円	113.8%	+5,090億円
営業利益	2,491億円	115.1%	+327億円
当期純利益	1,280億円	132.0%	+310億円

PL為替換算レート: U.S.\$1=96.83円(前年差:17.44円 円安)

\*グループ売上: セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.におけるチェーン全店売上を含めた数値



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

1

## 事業セグメント別営業利益

- 主にコンビニエンスストア事業と金融関連事業により増益を達成

	14/2期 第3四半期 累計			14/2期 第3四半期(9-11月)		
	金額	前期比	前期増減	金額	前期比	前期増減
連結営業利益	2,491億円	115.1%	+327億円	845億円	122.2%	+153億円
コンビニエンスストア	1,975億円	114.6%	+251億円	688億円	123.0%	+128億円
スーパーストア	170億円	132.5%	+41億円	52億円	145.3%	+16億円
百貨店 (のれん償却前)	▲16億円 (22億円)	—	▲15億円	▲11億円 (1億円)	—	+3億円
フードサービス	2億円	54.2%	▲2億円	▲6億円	—	▲6億円
金融関連	344億円	119.4%	+56億円	115億円	113.1%	+13億円
その他	20億円	67.4%	▲9億円	6億円	69.1%	▲3億円



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

2

## 主要事業会社の営業利益

●セブン-イレブン・ジャパンと7-Eleven, Inc.は過去最高益

	14/2期 第3四半期 累計			14/2期 第3四半期(9-11月)		
	金額	前期比	前期増減	金額	前期比	前期増減
セブン-イレブン・ジャパン	1,638億円	113.0%	+188億円	525億円	116.8%	+75億円
7-Eleven, Inc.	385億円	130.6%	+90億円	177億円	151.3%	+60億円
イトーヨーカ堂	37億円	270.6%	+23億円	10億円	171.6%	+4億円
ヨークベニマル (LF <sup>※</sup> 込み)	117億円	109.2%	+9億円	32億円	117.2%	+4億円
そごう・西武	13億円	78.4%	▲3億円	▲1億円	—	+2億円

\*ライフワーズ(LF)・・・主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社  
(注)YB+LFの営業利益は管理上の数値であり、参考値であります。



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

3

2014年2月期 計画

## 連結業績計画

●期初計画に変更なし

	14/2期計画		
	金額	前期比	前期増減
グループ売上*	95,600億円	112.4%	+10,523億円
営業収益	56,400億円	113.0%	+6,483億円
営業利益	3,400億円	115.0%	+443億円
当期純利益	1,700億円	123.1%	+319億円

PL為替換算レート:14/2期予想 92.00円(前年差:12.19円 円安)

\*グループ売上:セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.におけるチェーン全店売上を含めた数値



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

4

## 連結業績計画: 事業セグメント別営業利益

●事業セグメント別計画も期初計画から変更無し

	14/2期計画		
	金額	前期比	前期増減
連結	3,400億円	115.0%	+443億円
コンビニエンスストア	2,490億円	112.3%	+272億円
スーパーストア	396億円	155.3%	+141億円
百貨店	89億円	110.8%	+8億円
フードサービス	14億円	194.0%	+6億円
金融関連	414億円	110.6%	+39億円
その他	40億円	102.9%	+1億円



Copyright (C) Seven & i Holdings Co., Ltd. All Rights Reserved.

5

## 本日お話をさせていただく内容

グループPB商品:セブンプレミアム

主要事業会社の事業戦略

オムニチャネル時代への対応

### セブンプレミアムの販売計画と13年11月期実績

●セブンプレミアムの売上高は前期比130%超となり今期の増益に寄与



## 9-11月期における新規お取引先様とのPB開発商品

●キリンビバレッジ株式会社

セブンゴールド金の紅茶アールグレイ・138円



●株式会社ロッテアイス(セブンゴールド初)

セブンゴールド金のアイス生チョコバー・195円



●江崎グリコ株式会社

セブンプレミアムプレッツェル・128円



●株式会社明治

セブンプレミアムカカオ・198円



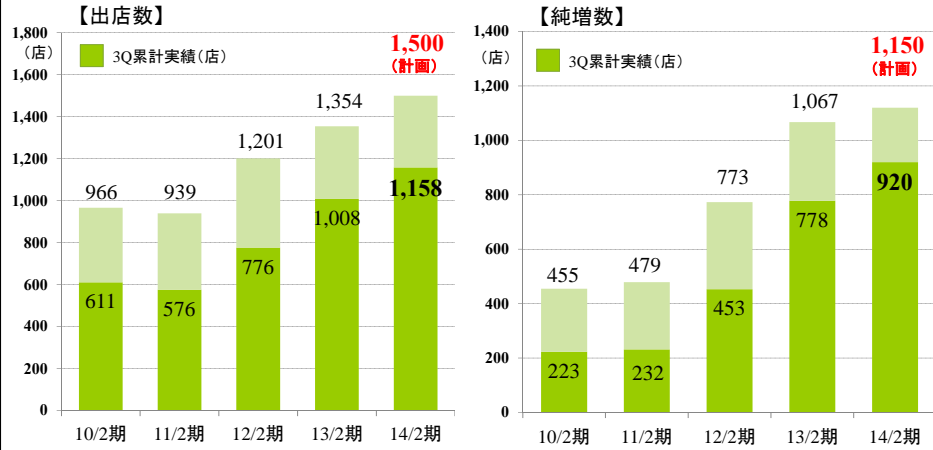
グループPB商品:セブンプレミアム

主要事業会社の事業戦略

オムニチャネル時代への対応

## セブン-イレブン・ジャパン(SEJ)： 出店及び純増数の推移

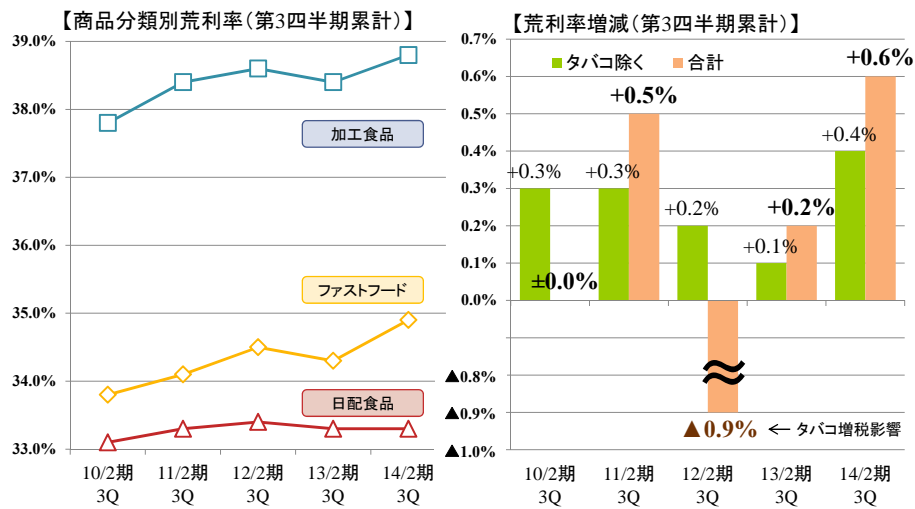
●3Q累計として過去最高の1,158店舗の出店と純増数(+920店)



強固な店舗開発体制による質の高い出店を継続

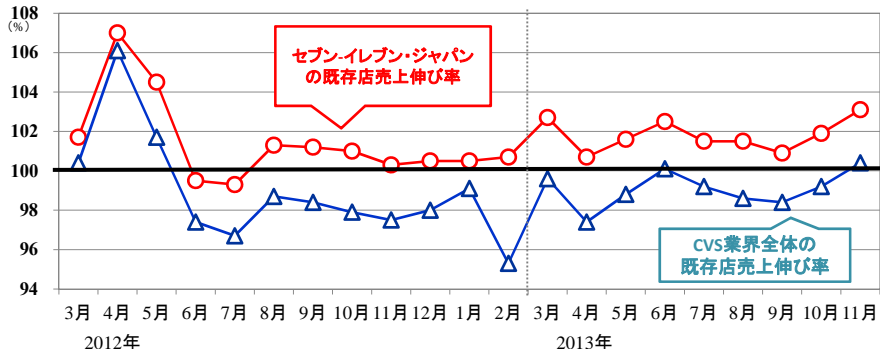
## SEJ： 荒利率の推移

●セブンカフェや基本商品の品揃え強化、オリジナル商品の伸長により荒利率は継続して改善



## SEJ: 既存店売上伸び率の推移

●新しい価値ある商品の開発・提案により、既存店売上伸び率は16ヶ月連続前年クリア



●新しい商品開発による品揃え強化の事例

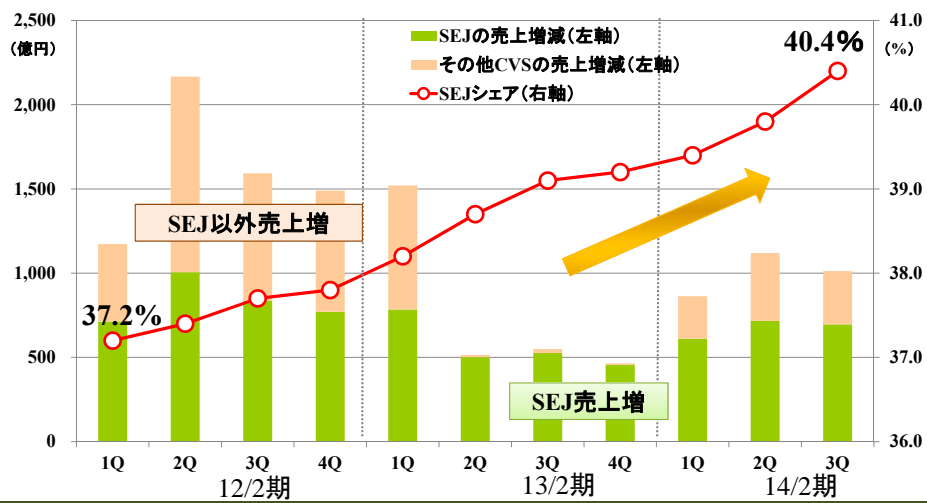


(注)SEJの既存店売上伸び率は、2014年2月期より新基準で開示しております

## SEJ: 四半期別の売上シェアとCVS売上増減の推移

●既存店売上の継続的向上 + 計画的な出店加速

⇒ 14年2月期第3四半期のCVS業界シェアは40%を超過

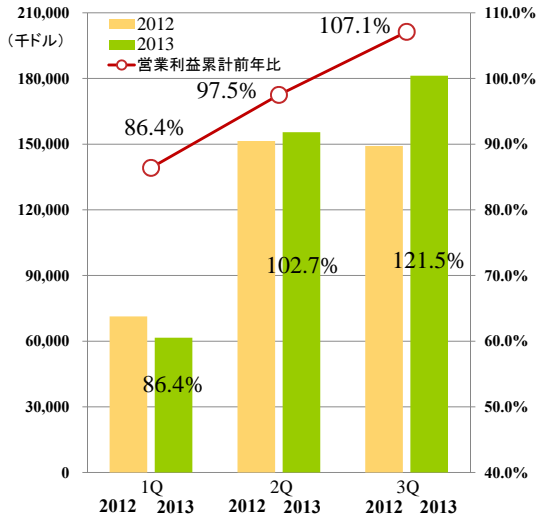


(出典)JFAコンビニエンスストア統計調査月報



## 7-Eleven, Inc. (SEI) : 営業利益(ドルベース)の状況

【四半期別・累計営業利益(ドルベース)実績】



【第3四半期累計のポイント】

### 既存店売上伸び率

3Q累計: +1.4%; フレッシュフードやノンアルコール飲料等が好調に推移

### 商品荒利率

3Q累計: ▲0.4%;  
前年気温与件により高荒利商品がマイナスも、2Q以降は回復傾向

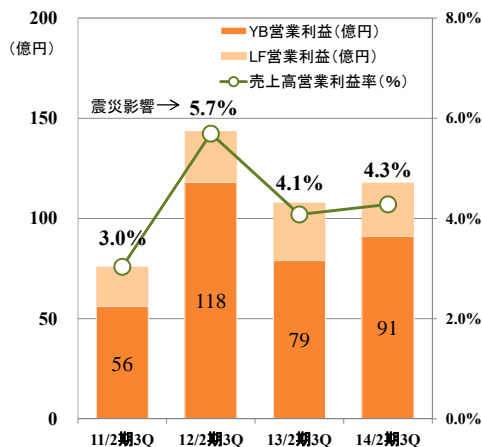
### ガソリン売上

販売量の増加に加え、買収による販売店舗の増加により好調推移

## ヨークベニマル(YB) : 収益力の強化

● 厳しい経営環境の中、YB(ライフフーズとの合算)は高収益を維持

【営業利益及び売上高営業利益率(第3四半期累計)】



【高収益に向けた取り組み】

### ① 差別化商品の強化

惣菜(LF)、生鮮、セブンプレミアム  
⇒競争力の強化

### ② ドミナントの深耕

既存エリアへの出店:9店  
⇒物流費等経費の効率化

### ③ 人材育成

心、技術、マネジメントの教育  
⇒職位別の業務遂行基準の明確化

\*ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社  
(注) YB+LFの営業利益及び営業利益率は管理上の数値であり、参考値であります。

## イトーヨーカ堂(IY)：衣料品の構造改革

●構造改革とMD改革により、衣料品が黒字化

### ① 構造改革の推進

店舗構造改革(11/2期～13/11期)	71店舗
衣料品売場面積	▲10%(▲2万坪)



13/11期構造改革店舗数：16店

### ② PB商品の開発強化

衣料品におけるPB商品	13/2期	13/11期
売上構成比	33%	45%
荒利額構成比	41%	52%



	13/2期	13/11期
衣料品の荒利率	39.3%	40.3%
売場面積減少⇒13/11期;約▲3%・坪荒利;約+1%		

衣料PBの成功事例から、MD力強化に向けた取り組みが始まってきている

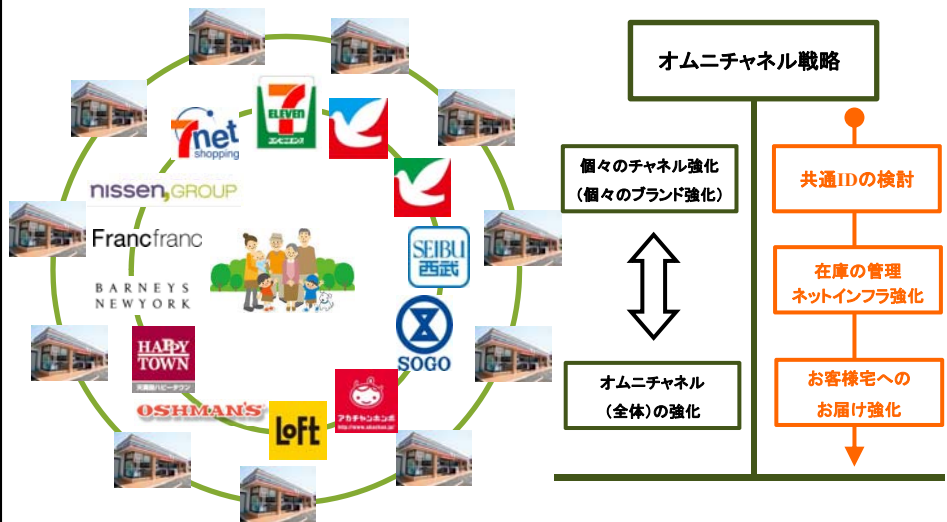
グループPB商品：セブンプレミアム

主要事業会社の事業戦略

オムニチャネル時代への対応

## グループの目指すオムニチャネルの概念図

- お客様のニーズ・行動を起点とし、提供できる商品・サービスの可能性を追求する



## オムニチャネル戦略への布石

- 全てのベースは現場力と商品力の強化、グループにないものはM&Aも選択肢となりうる

公表日	内容	備考
12月2日(月)	ニッセンHDへの公開買付開始	連結子会社化
12月4日(水)	バーニーズジャパンの株式取得	持分法適用関連会社
12月10日(火)	天満屋、天満屋ストアとの資本業務提携	持分法適用関連会社
12月25日(水)	バルスとの資本業務提携	持分法適用関連会社
1月7日(火)	セブン&アイ・ネットメディアによる セブネットショッピングの吸収合併	ネット事業一本化

## 【ご参考】 主要事業会社の決算概況

### SEJ決算概要

#### 決算のポイント



既存店売上の伸長と荒利率の改善により過去最高益を達成

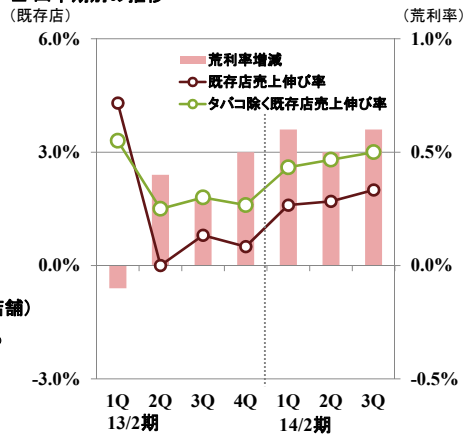
	実績	前期比
営業利益	1,638億円	113.0% +188億円
既存店売上伸び率	+1.8%	
商品荒利率	30.7%	+0.6%

※既存店売上伸び率は、2014年2月期より新基準で開示しております

#### 概況

- 3Q累計として過去最高1,158店の出店と純増数(+920店舗)
- 既存店売上は、政策的に強化している『セブンカフェ』や  
デイリー商品の好調により計画を上回って推移
- 商品荒利率は通期計画(+0.5%)を上回って改善

#### ■ 四半期別の推移



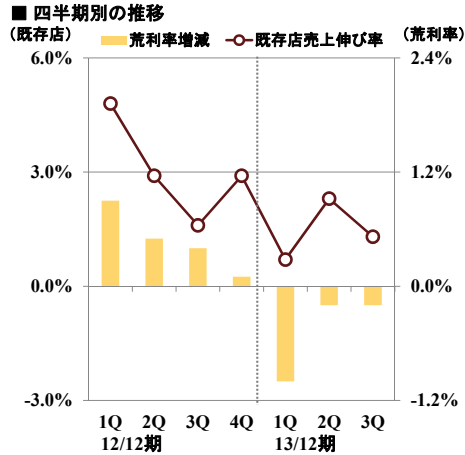
## SEI決算概況

### 決算のポイント



商品売上の伸長とガソリン荒利額の増加に加え、為替の円安影響により増益

	実績	前期比
営業利益	385億円	130.6% +90億円
米国内既存店商品売上 高伸び率(ドルベース)	+1.4%	
商品荒利率	34.9%	▲0.4%



### 概況

- 商品売上はFF、スナック、アルコール飲料などが牽引して伸長
- 荒利率はマイナスも、スナックや飲料等の改善から2Q以降は回復傾向
- 店舗数は自前での出店を中心に331店舗を出店
- 営業利益に対する円安影響は約+69億円

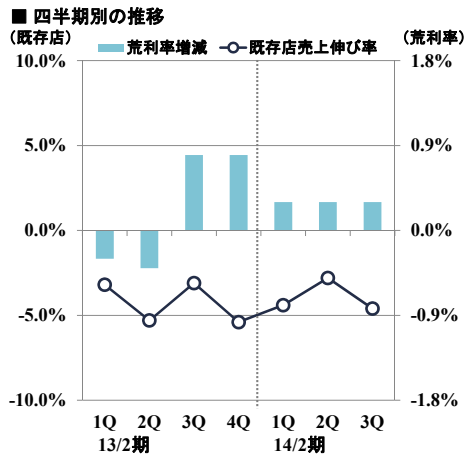
## IY決算概況

### 決算のポイント



構造改革の継続とPB商品強化による荒利率改善により増益

	実績	前期比
営業利益	37億円	270.6% +23億円
既存店売上伸び率	▲3.9%	
商品荒利率	30.2%	+0.3%



### 概況

- 既存店売上は、主に構造改革による自営業場面積の減少(約▲2%)や天候要因などによりマイナス
- 荒利率はPB商品強化が奏功し、衣料品を中心に改善(衣料:+1.0%)
- 販管費は、新店による増加はあったものの、既存店ベースでは、着実に削減

## YB決算概況

### 決算のポイント

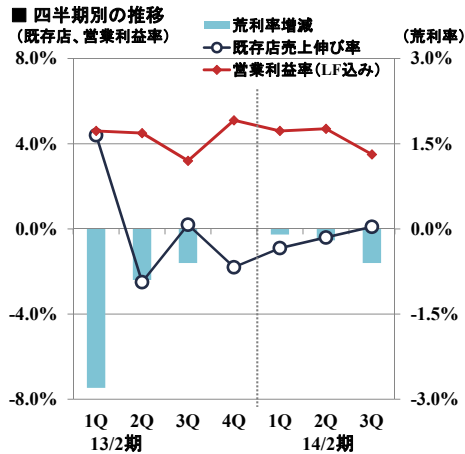


積極的な出店に伴う費用をカバーし、増益を達成

	実績	前期比
営業利益	91億円	115.2% +11億円
既存店売上伸び率	▲0.4%	
商品荒利率	25.5%	▲0.3%
営業利益 (ライフフーズ込み)*	117億円	109.2% +9億円

### 概況

- 既存店売上は、生鮮を中心とした生活提案型の売り方により、ほぼ前年並みを確保
- 出店(9店舗)により、売上高は+4.1%の増収
- 荒利率は、頻度品を中心とした価格対応などにより若干のマイナス



\*ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社  
(注) YB+LFの営業利益及び営業利益率は管理上の数値であり、参考値であります。

## SS決算概況

### 決算のポイント

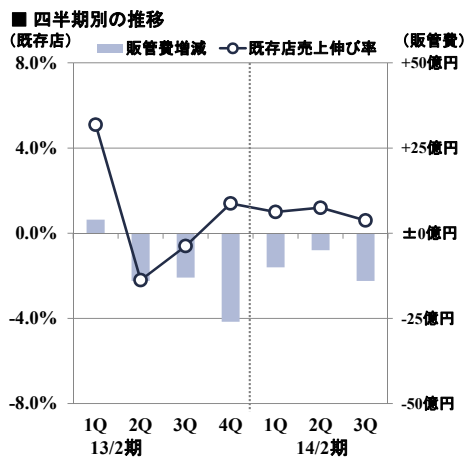


既存店売上は伸長も高額品売上伸長による荒利率のマイナスにより減益

	実績	前期比
営業利益	13億円	78.4% ▲3億円
既存店売上伸び率	+0.9%	
商品荒利率	25.0%	▲0.2%

### 概況

- 既存店売上は、高額品の売上伸長に加えて、池袋、横浜といった基幹店の伸長によりプラス
- 荒利率は、主に低荒利率の高額品売上伸長の影響によりマイナス
- 販管費は前期2店舗の閉鎖による削減に加え、既存店ベースでも抑制



本資料には、当社の本資料発表日時点における計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。